

米政府とウクライナが、ゼレンスキーを批判した米記者 殺しを共謀

アメリカが米ジャーナリスト Gonzalo Lira の拷問・殺害を放置

<https://www.rt.com/russia/590587-gonzalo-lira-death-ukraine-zelensky/>

January 13, 2024

RT/ Tarik Cyril Amar (ドイツ出身の歴史家)



Gonzalo Lira

臆病者とウソつきの世界では、本当に重要な時と所で真実を語ることは勇気を要し、命を奪われることがある。

やはりゴンザーロ・リーラは死んだ。

<https://x.com/RealAlexRubi/status/1745863733438488629?s=20> 彼がウクライナ政府によって消される（そしてこの時は永遠にだった）前に、最後のビデオ・メッセージで警告したように、彼の政治ジャーナリズムは、彼の命を犠牲としなければならなかった。

<https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?q=gonzalo%20lira%20last%20video%20message&mid=565C5FFF6E2B62193742565C5FFF6E2B62193742&ajaxhist=0>

成功した社会メディア評論家であり、アメリカ市民であったリーラは、西側とウクライナの対ロシア戦争の立場を批判したことによって、ウクライナの抑圧装置に幽閉されている間に死んだ。彼の言葉はしばしば直接的で、激しく論争的でもある。しかし彼はスパイでもなく、体制を転覆する影響力を持った人物でもない。彼は何も隠さず、落度と言えるほ

どにあけすけで、自分の言うすべてのことに実名を使い——命をさらしていた。彼は政治的な囚人だった。そして彼に向けたウクライナの公的な非難は、滑稽な恥さらしである。

彼の死の直接的な原因は、ほとんど確実に苛酷で、長引かされた、意図的な放置によるものだった。これが彼を間接的に死へと導いた。それが十分に意図的であったかどうかたかは別にして、それはある条件（肺炎と合併症）による、完全に治療可能なものだった。法的な観点からは、これは少なくとも「故殺」か謀殺であり、ウクライナの「法」担当官と、その命令に従う者たちによって犯されたものである。

リーラがまだ意思疎通できるときに話したところでは、彼はまた、彼の個人的な財産を奪うために、手を使うやり方で拷問を受けた。もしあなたがウクライナの政治と権力のやり方を知っていれば、彼を疑う理由は全くない。

タッカー・カーソンやイーロン・マスクのような、同じ米市民であるリーラを助けようとした、著名で称賛すべき人々にもかかわらず、アメリカ政府は、明かに極端な危険状態にあった自分自身の市民の一人を、助けるのを拒否することによって、事実上、彼を殺すのに手を貸したことが明らかとなった。

ところで、リーラが我々に話したことだが、彼が事情通の人々から聞いた話として、ピクトリア “ネオコン・クッキー・モンスター、およびクーデタと戦争の女王” スーランドは、彼に起こったことを知っていて、「彼の勇気を憎んだ」のだという。

<https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?q=gonzalo%20lira%20last%20video%20message&mid=565C5FFF6E2B62193742565C5FFF6E2B62193742&ajaxhist=0>

西側が、彼らの習慣となった戦争とジェノサイドを、加速度的に拡大しているときに、たった一つの失われた命に文面全体を捧げることに、ほとんど違和感を覚える人があるかもしれない。すべての人間の命は、正確に同じ絶対的な価値をもち、あらゆる尊厳ある人間が真理を与えられ、もっと重要なことに、宗教的であるか否かを問わず、それを実践している。にもかかわらず、この完全に墮落した世界で権力が働くやり方を見ている限り、リーラについて話すことには大きな意味がある。

第一に、それは我々が敬意を払うためである。ゴンザーロ・リーラが聖人君子でなかったことは確かである（我々すべてがそうでないように）。彼の CV (?) には、我々すべての者のように、死ぬまで後悔するかもしれないものが入っていた。彼はまた、私なら絶対に合意できない政治的見解をもっていた——例えば、チリのひどいピノチェト独裁に対するリバタリアンで弁解的な考えなど。

では、どうだというのか？ 彼は並外れて勇気があった。そしてそれが最後には彼の命を失わせた。そして彼は異常な正直さをもっていて、米と NATO の、ウクライナによる代理戦争が、いかに間違っているかを直感するだけでなく、それを大声で、恐ろしく公然と口にした。ウクライナを拠点としている間も――。(そして再び完全に打ち明けると、私は YouTube の彼の プログラム に招かれるという純粋な栄誉と喜びを与えられたが、彼はそこで、場違いなユーモアのセンスをもつ、聡明で上品なホストだった。)

臆病で世渡り上手で陰険な者たちの世界で、(例えば、オーラフ・ショルツ、ロバート・ハベック、Annnalena Baeböck を見よ)、そして習慣的に粗野でウソつきの世界で、(ベニヤミン・ネタニヤフ、ジョー・バイデン、アントニー・ブリンケン、そしてしかり、ウラジミール・ゼレンスキーらを見よ)、**ゴンザーロは重要な場面で、そして勇気を要するときに、大声で叫んだ。**

これこそ、あの ステラ・アサンジ (ただ一人、世界で最も重要な政治囚ジュリアン・アサンジの妻) が、リーラの死をツイートし、アメリカの権力者たちの責任を、正しく指摘した理由である。 https://x.com/Stella_Assange/status/1745972413622329424?s=20

ゴンザレス・リーラの父が、ここで最後に発言すべきである。これは彼が The Greyzone に話した言葉である： <https://thegrayzone.com/2024/01/12/gonzalo-lira-dies-ukrainian-prison/>

「私は私の息子が死んだやり方を受け入れることができない。彼は拷問され、強奪され、8 か月 11 日間も連絡を絶たれていた。そしてアメリカ大使館は、息子を助けるために何もしなかった。…この悲劇の責任は、独裁者ゼレンスキーと、老齢のアメリカ大統領ジョー・バイデンとの協力にある。…私の苦痛は耐えることができない。世界は、ウクライナの非人間的な独裁者ゼレンスキーのもとで、何が起きているのかを知らなければならぬ。」

我々は純粋に心から同情することはできるが、彼の苦痛の深さをそのまま感ずることはできない。しかし我々すべてにとって、ゴンザーロ・リーラの、引き延ばされた、どこまでも不正なそして完全に避けることのできた殺害は、西側を支配している者たちがどこまでも見せつける残忍さの、もう一つのしるしである。

このコラムに表明された言葉、見解、意見などは、専ら著者のものであって、必ずしも RT の見解を反映するものではありません。

[訳者 Greatchain 注]

ジャーナリスト、ゴンザーロ・リーラによる真実の暴露は、長時間拘束され、おそらく衰弱して動けなくなるまで送り続けたもので、貴重なものになった。しかし重要なことは、文字通り自分の死を通じて語るという英雄的な行動であり、これによって西側の悪の実態が明瞭となったことである。

この数か月で殺されたジャーナリストは、かなりの数に上ると言われ、そのことが話題にならないのも異常だが、この特定のジャーナリストの死に、特別の注目と敬意を払おうとする著者には、共感することができる。彼は、ゴンザレスの悪を怖れず、死を怖れない大胆さと、正義への意志と情熱は、特別のものだったものだったと言おうとしている。これは例えば、戦争で死を怖れず戦って死ぬようなこととは、全く別物である。主流メディアは、このように悪と戦って死んだことが明かな、典型的なジャーナリストを完全に無視するであろうが、そのこと自体が犯罪であることを覚えておくべきである。